

藤河内溪谷周辺地域の哺乳類 ほにゅうるい ニホンカモシカの生態

藤河内溪谷地域周辺を中心にホニュウ類の調査を糞や足跡、食跡などを手がかりに行いました。その結果、12科目18種のホニュウ類の生息を確認しました。確認された動物の中にはニホンカモシカやヤマネといった貴重な種が含まれていました。特別天然記念物に指定されているニホンカモシカについて今回はお話しを進めていきます。

ニホンカモシカは 何の仲間



ニホンカモシカ（九州大学 土肥 昭夫氏提供）

ニホンカモシカという名前からシカの仲間と思っている人がいますが、ウシの仲間です。シカの角は毎年生え変わりますが、ニホンカモシカの角は生え変わることなく年々成長します。実はこの角に年ごとの成長の跡（こん）が残る、この痕跡数から年齢が推定されます。ニホンカモシカに近い種には、台湾にタイワンカモシカ、ヨーロッパアルプスにシャモア、北アメリカ（カナダ）のロッキー山脈にシロイワシロヤギなどがいます。どれも険しい岩場に生息しています。

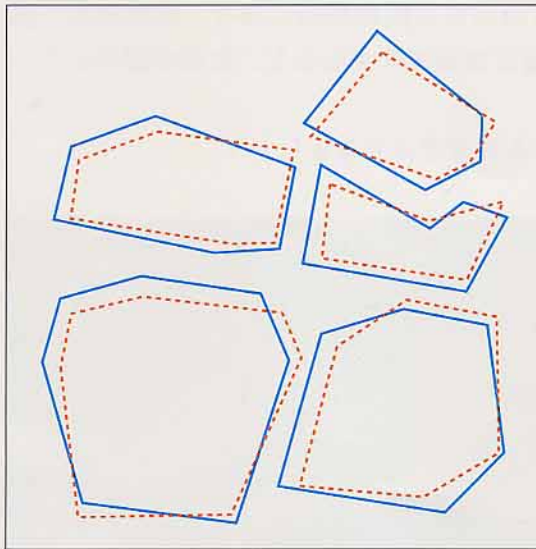
ニホンカモシカの溜め糞 たぐそ



ニホンカモシカの糞場（北九州博物館 馬場 稔氏提供）

ニホンカモシカにはおもしろい習性があります。角研ぎはニホンシカの雄もします。時々林の中で木の皮が剥がれているのを見かけることがあると思います。これはニホンシカの雄やニホンカモシカによるものです。両種の糞は、大きさや形が似ているので野外では、なかなか見分けが付きません。私たちが見分ける場合は、その糞粒の数が決め手になります。ニホンカモシカは、糞を一定の場所でするおもしろい習性があります。その糞場には数百以上の糞粒が発見されます。ニホンシカにはそのようなことがありません。

ニホンカモシカの生活



ニホンカモシカのなわばり
 ——— 雄のなわばり
 - - - - - 雌のなわばり

ニホンカモシカは、雄・雌が別々のなわばりを持っています。そのなわばりの大きさは直径500mほどで、大きくても1,000mぐらいです。雄は自分のなわばりに入ってくる雄のみを追い出します。雌も雌だけを自分のなわばりから追い出します。その結果ペアを形成した雌雄は、そのなわばりが重なることになります。シカは一匹の雄が複数の雌を繁殖期には所有しますが、ニホンカモシカは基本的には一雄一雌です。このなわばりの境には、それぞれの個体が眼の下にある眼下腺から分泌される匂いのある物質を木などに塗り付けて相手に知らせます。それでも自分のなわばりに入ってきた相手には追いかけて追い出します。

図のように雄のなわばりと雌のなわばりは重なりあう。この重なりあった雄と雌がつがいを形成します。特に雌は自分のなわばりから一生でないことが多いようです。そのため、産まれた雌の子どもは自立する時に母親のなわばりを譲り受けます。

九州のニホンカモシカの生息地は、宇目町の傾山を中心とした山系から竹田市の祖母山を中心とした地域と宮崎県・熊本県の一部に生息しています。特に大分県の場合は傾山や祖母山への登山路やその近くの岩場に姿を現わすことがあります。とてもおとなしい動物で人間が脅かさない限り、その姿をじっくり見ることができます。私自身も調査中に1時間近く観察する機会がありました。出産期は春先で、1回の出産数は、ほぼ1頭です。夏場には、その年に産まれた子を伴った母親を観察できる場合があります。

藤河内溪谷地域で確認された哺乳類（7目12科18種）

藤河内溪谷地域の調査で確認された動物は次の通りです。その生息種は、大分県で最も多い地域です。

目 名	和 名	目 名	和 名
モグラ目	コウベラモグラ カワネズミ	ネコ目	キツネ タヌキ
コウモリ目	アブラコウモリ		テン
サル目	ニホンザル		イタチ
ウサギ目	ノウサギ		アナグマ
ネズミ目	ムササビ ヤマネ アカネズミ ヒメネズミ カヤネズミ	ウシ目	イノシシ ニホンジカ ニホンカモシカ